

令和4年度

大川市総合教育会議議事録

令和4年12月26日

令和4年度大川市総合教育会議

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分
閉会 16時23分

2. 出席者

市長 倉重 良一
教育長 内藤 妙子
委員 谷川 朋昭
委員 一ノ瀬直子
委員 今村 秀一

3. 事務局等の出席者

企画課長	野中 貴光
地域支援課長	島崎 恵一
健康課長代理	石山 裕子
学校教育課長	添田 宗孝
学校教育課主任指導主事	池上 和久
学校教育課指導主事	古賀 孝志
〃	森 茂
生涯学習課長	井口 秀成
生涯学習課社会教育主事	田中 孝親

4. オブザーバー

大川市中学校校長会長	岡 善文
大川市小学校校長会長	松延 聡
大川市区長会長	添島 元紀

5. 傍聴者

1名

6. 協議事項

(1) 大川市におけるコミュニティ・スクールの活性化について

7. 議事

○倉重市長

皆さんこんにちは。年の瀬にお集まりいただきありがとうございます。

この会議は、平成27年の法改正に伴い、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置されたものであるという事を確認させていただきたいと思います。

昨年も申し上げたかも知れませんが、世の中がもの凄い勢いで変わってきている時代を私たちは生きています。誰が21世紀にヨーロッパで戦争が、しかも壮絶な地上戦が起こることを想像したでしょうか。パンデミックがここまで世界や私たちの生活に影響を与えたと、3年前には夢にも思っていません

んでした。そういう中で、例えば働き方についてはリモートワークが取り入れられ、ICTの発達によって生活のいろんなものが変わっていき、技術革新が私たちの生活に変化を及ぼしてきています。

大事なことは、子供たちが力強く生きる力を、大人の責任として子供たちにつけるために具体的な策を練る事だと思います。

今日のテーマにありますコミュニティ・スクールによって、子供たちの郷土への思いや、力強く生きている人達が身の回りにいる事を実感させる事もあるのではないかと思います。また、子供たちから教えられる事も我々大人にもあるのかもしれない。

本日は、限られた時間の中で有意義な会議にしていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

まず、内藤教育長からコミュニティ・スクールについて冒頭のお話をお願いします。

○内藤教育長

皆さんこんにちは。今日のテーマについて、A3版の資料をお配りしていますが、これは大川市教育振興プログラム体系図です。この中で、めざす人間像に、『ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする、創造性豊かなひと』を掲げています。次に、目標が1から4まであり、黄色いマーカーしている部分が今日のテーマと関係ある部分で、目標2『人づくりの教育』、目標3『地域づくりの教育』です。目標2は学校教育、目標3は生涯学習が担当していますが、区別なく一緒になってやっていこうというふうに思っています。

人づくりの教育の主要施策の中に『14 地域とともにある学校づくりの推進』があり、地域づくりの教育の主要施策の中に『22 学校を核とした地域づくりの推進』というものがございます。今日のテーマのコミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置している学校の事ですが、子供たちのために地域の人がお手伝いするだけでなく、学校を核とした地域づくりという視点をもって、コミュニティ・スクールの活性化について考えていったらどうだろうかと思っています。

昨年度のこの会議で、子供たちが主体的に長いスパンで探求し発表する機会を作ったらいという意見が、昨年11月の『大川ふるさと教育フェスティバル』に繋がりました。今回の会議でも、いろんな意見やアイデアを出していただき、来年度からの教育行政に繋げていきたいと強く思っています。

学校づくり、地域づくりという観点から今日のテーマについてご意見をいただければと思います。

○倉重市長

ありがとうございます。今日の会議の趣旨は、市長と教育委員の意思疎通を円滑にしていくという意味もありますので、まずは教育委員の3名の方にご意見を伺っていききたいと思います。それでは、一ノ瀬委員からお願いします。

○一ノ瀬委員

私は木室地区に住んでいて、先日木室小学校のコミュニティ・スクールで、昔遊びとか今と昔の違いなどを授業の中で話をさせていただき、子供たちと交流しました。その後、子供たちが学んだことを発表するときに、私は出席できなかったんですけど、他のメンバーからはすごくよかったと感動されました。私は後で、学校に掲示物を見に行きましたが、子供たちが教えられたとおりに受け取ってもらえたのでかわいいなと思いましたし、もっとゆっくり交流できる時間が取れたらよかったなと思いました。また、45分の授業の中で先生達がとても苦勞して時間配分されているなと思いました。

それに関連して、私はたんぼぼの会に所属して、地域の高齢者の方々との交流をしています。その会場を小学校に移してはどうかという意見が出ていて、なぜかという高齢者の参加者が増えてコミセンの会議室では手狭になってきたからで、小学校に高齢者の居場所づくりをしてはどうかという意見が出ています。

また、中学校に赤ちゃん先生をお願いしてはどうかという意見もでています。中学生が赤ちゃんに触れる機会がなく大人になっていくケースが増えていきますので、赤ちゃんを連れてお母さん達に週1か月1か中学校に来てもらい、中学生と赤ちゃんが触れ合うというものです。これは、柳川市で行われていて私も実際に見てきたんですけど、中学生の笑顔とか、赤ちゃんやお母さんとの交流が素晴らしいなと思いました。そういったものが、少子化対策にもなればとも思います。

何年か前に『早寝、早起き、朝ごはん』の取組みが全国的にされてた時に、私も関わってまして、アンケートを取ったら木室小学校の児童は、5%ぐらいが朝食を摂らずに登校している児童がいたり、朝食を食べてきた児童の中でもチョコレートやビスケットを食べてきた児童もいた事がわかりました。

子どもの貧困と高齢者の居場所を考えたときに、高齢者の中には自分で朝食を作られているお独りや少人数で暮らしている方々に、朝食提供として小学校の中で朝ごはんを食べてきていない子供たちに、午前中の元気を出してもらい、しっかり勉強に取り組めるように、朝ごはんの提供をしてはどうかと思いました。

コミセンに集まる人達の中には、子供たちに何かしてあげることはないかしらという思いの方も結構たくさんいらっしゃるの、小学校に高齢者の居場所を考えるとその辺りも考えていけたらいいなと思います。そうして、子供たちと高齢者が顔見知りになって、近所で会ったりしたときに、声掛けしたり、あいさつをしあえる楽しい小学校生活になるんじゃないかと思います。また、高齢者の方たちも子供たちがかわいいと思えるふれ合いができると思います。

また違うアイデアですけど、道遊びとって、今年の11月に生涯学習課が公園の道路にチョークで絵を描くイベントがありましたが、それを地域の道路で大人も子供もいっしょになって遊ぶという企画ですけど、普通は道路で遊んだら危険だから出来ないんですけど、出来ない所で遊ぶっていうとワクワクする気持ちがして、大人から子供まで自然に人が集まってくるという地域のイベントをされたところもあります。

学校だよりの中に、いろいろな企画が載っているの、コミュニティ・スクールのスタッフの交流会を開くとそれぞれのアイデアを交換し合えると思うし、市民へ広報していただくと理解が深まると思います。

○倉重市長

ありがとうございました。次に谷川委員お願いします。

○谷川委員

大川に限らず、人口が減少していっている中で、コミュニティ・スクールで子供たちを育てていくのは、とても大切になってくると思います。

まず、コミュニティ・スクールの中で、地域の人たちが子供達を知り、子供達が地域の人たちを知る機会が多くできるし、そういう取組をしていかないといけないと思います。

市内の小中学校全てに学校運営協議会が設置してありますが、まだ地域に浸透していないと感じていて、ベクトルの向きが学校から地域のままであり、「学校運営協議会」や「地域学校協働本部」という言葉だけが先行していると、直接関わっていない人たちからは、よくわからないものになっているの

で、個人的には、地域の人が今の学校は昔と違って何か変わってきているよね、という声が出てきたときに、コミュニティ・スクールが活性化し始めているのだと思います。

だから、いろいろな活動を通して、例えば授業参観に保護者だけでなく地域の人達にもご案内して、学校に足を運んでいただくとか、運動会と校区民大会を併せて子供たちと地域の人達が同じ景色を見て、同じ空間にいるという取組を始めてはどうかと思います。

○倉重市長

はい、ありがとうございます。続きまして今村委員をお願いします。

○今村委員

地域の方達は、いろんな団体で、子供達のためにボランティアで活動されていると思いますが、そういう事をよく知らない方達にどうにかして大川の良さや大川の事を知ってもらえないかなと思います。子どもの声が聞こえて、子供達が集まる環境には、どうしたらいいのか考えることもあります。

学校運営協議会については、いろいろ活動されている事が保護者側に伝わっていなかったりするので、学校見学会やいろいろな委員会に入ってもらい情報を共有すると良いかなと思います。さらに、大川を象徴する事やものを昨年開催された「ふるさと大川教育フェスタ」みたいな発表の場で発表してはどうかと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。それぞれの委員から意見をいただきました。一ノ瀬委員からは、小学校を高齢者の居場所にしてはどうかとか、赤ちゃん先生を中学校にお願いしてはどうかとか、朝食の提供をしてはどうかといった具体的な提案を出していただきました。

谷川委員からは、地域の人達にも授業参観に来てもらったかどうかとか、運動会と校区民大会を一緒にやってはどうかという話ができました。

今村委員からは、地域の人と保護者と子供たちが連動するような家族のあり方が必要だという意見をいただきました。

次に、オブザーバーとして出席していただいている方々の中から、どなたかご意見をいただけますか。

○添島区長会長

私は、3年前に当時社会教育主事であった内藤教育長からコミュニティ・スクールのお話をコミセンでしていただきました。その時に、学校と保護者と地域が子供達を育てていき、地域を愛し市外に出てもいつかは帰ってきたいと思う子供達を育てていこうという話に感銘を受けてやってきたところですが、今年度は毎月1回以上は何かの形で1年生から6年生まで関わってきました。

私は、あくまでも主役は子供と思っていますので、子供を中心に物事を考えていこうと思っています。

○倉重市長

はい、ありがとうございました。学校の先生側からいかがでしょうか。

○松延小学校長会長

さきほど、一ノ瀬委員から話がありましたけれど、うちの小学校で昔遊びをいろいろ紹介してもらうために地域の人を招待したんですが、印象的だったのが、地域の人達が子供達の輪の中に入っていきと

きに、子供達が地域の人に手招きしたんですね。その様子が、自然な感じがしてとても印象的でした。

そういうのは、教えられて出来るものじゃないので、地域の人スタンスを子供達が理解しているのと、本校が3年前から県の事業で「鍛ほめ」というのをやっ^{きた}ていまして、学ぶ意欲とか自尊感情を育てるようにしています。これがあつたので、その学ぶ意欲があるところに地域の人との交流があつて、自然な手招きが出来たと思います。

私は、学校とは「地域とともにある学校」よりも「学校を核とした地域づくり」に見合う学校を作っていけないと本末転倒になってしまうと思います。昔から、学校と連携すると負担になるといわれていましたが、そうではなく、地域は負担にならない方法で上手く関わっていき、学校は教育をしっかりやって上手く関わられるようになるもので、そうすると学校の役割が果たせるのかなと思っています。

先ほど言われた交流会の事で今考えているのは、学校に関わっていただいている全ての方を一同に会する機会を2月頃に出来たらいいなと思つていて、地域の人達の交流の場を学校が提供できるのかなと思つています。

○岡中学校長会長

中学校は、統合して2校が1校ずつになり4小学校区から来るようになりまして、小学校単位のコミュニティ・スクールはよく活動されていると聞いています。本来コミュニティ・スクールが始まった頃は、学校が中心になって活動するものかなと思つています。

今は働き方改革の課題があり、出来るだけ学校の負担を減らす方向で地域と連携してやっていくというのが目標でもあるし、地域と学校が共にやっ^ていこうとしていて、今までは学校が地域から支援してもらつた立場から、逆に学校が地域を支援出来ないかという事で、うちの中学生が花宗川の「芦刈ボランティア清掃」などの地域の行事に参加したり、公民館の運動会に役員を出したりして、お互いウィン・ウィンの関係を作っ^ていかないといけないのかなと思つています。

いずれにしてもキーパーソンを、スタートは学校長を中心をやっ^ていくけど、ゆくゆくは地域の方が主導していく形が良いと思つますけど、そのあたりが難しいなと思つています。

小学校のコミュニティ・スクールと中学校のコミュニティ・スクールのあり方が違うんじゃないかと思つていて、小学校の場合は、小学校のいろいろな活動に地域の人達が参加・協力していただつて活動してきたと思つますが、中学校の場合は、4小学校の各学校協働活動の推進委員さんにうちの学校運営協議会の委員になっていただつています。だから、中学校が何か活動したいときは、4人の推進委員さんが中心となつて協力してもらえる体制を作つています。

しかし、新型コロナ感染で「赤ちゃん先生」とか「職場体験」などが出来なくなつているので、そういう状況の中で無理なく中学生のすがたを地域の人達に見せられるような事を校長として考えて、この前の「芦刈ボランティア清掃」に参加しましたけれど、来年からは学校運営協議会の方と年間計画を立ててやっ^ていくと少しずつ充実したものになつていくのかなと思つています。

やっぱり無理なく進めていくのが大事なかなと思つています。

○倉重市長

ありがとうございました。区長会長さんと両校長会長さんからは現場の声をいただきましたが、地域が何を欲しているのか、学校が何を欲しているのが明確になるなかで、初めて活動していけるのではないかと思います。

添島区長会長が言われたように、子供中心であるべきという考え方はそのとおりだと思いますし、地域で課題や欲していることは異なっていると思いますので、そのための話し合いや想いを語り合わないとお互いの課題が見えてこないと思います。

でも、地域の方と学校が十分話し合いが行われているか分かりませんが、その辺りはどうでしょうか。

○森指導主事

今年、それぞれの学校運営協議会の会議に参加しました。コミュニティ・スクールに「熟議」「協働」「マネジメント」という3つの機能がありますが、その「熟議」のために、例えば木室小学校では、年間5回会議を計画しています。その中で対話を重ねていき、情報の共有を図り、子供達のために何が出来るかを考え、子供達のために活動することで、地域の人達がやりがいや生き甲斐を生み出すために、話し合いを設けています。

私は、学校運営協議会がそれぞれの学校に出来たので、その場を充実させていく事が大切だと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。学校運営協議会の場を充実させるという事ですが、一足飛びに何か成果が出来るわけじゃないので、まずは対話を重ねながらやっていく一方で、子供達や保護者は時が来たら卒業していくし、先生達も異動があるので、どうやってノウハウをキープしてより良い地域づくりや学校づくりに生かしていくのかという課題があるかなと思います。ご意見などございますか。

○添田学校教育課長

学校運営協議会で協議される目指す子供像について、川口小学校は「自転車のヘルメット着用率100%」を目標の一つに掲げて取り組んでいらっしゃるし、非常にわかりやすい目標だと思います。

地域の人でもわかりやすい目標なので、もしヘルメットを被っていない自転車の子供をみかけたら、声掛けが出来るし、そこでコミュニケーションも生まれるので、良い取組だと思うのでこの場で紹介させていただきます。

各学校では、教育指導計画を作ってその中で目指す子供像を掲げてあり、それをコミュニティ・スクールの目指す子供像にしてありますけど、それは地域の人達にとってはちょっと難しいのかなと私は思います。

○倉重市長

ありがとうございます。川口小学校では「自転車のヘルメット着用率100%」という地域の人達にもわかりやすい目標を掲げて、声掛けのきっかけにもしているという事です。

このような目標を作るというのはどうでしょうか。

○添田学校教育課長

川口小学校では、目標ごとに、通学路の安全点検を子供達もやっていますし、地域と学校で子供達を守りながら育てていこうという想いが詰まっていると思います。

○内藤教育長

付け加えますと、川口小学校では6年前に悲しい事故が起こって、子供達の命を守るという事が学校にとっても大事で、地域にとっても地域の子供達を守るという事からのスタートだったと思います。

学校が目指すことも像は、さきほど課長が言った教育指導計画にあります。それは学校側が望む姿であって、地域がどんな子供像を望むのかという事の熟議が出来ていないので、まだ学校の目指すことも像が安易に採用されがちなどころがあるので、地域の人達にとってはわかりづらい面があるのかなと思います。

だから、地域の望む子供像について、年度当初や年度末に対話をとおして熟議する必要があるのかなと思います。

○石山係長

こちらの部署では、高齢者の健康寿命の延伸が第1のテーマになっています。高齢者の方は、生き甲斐とか自分が得意な事を活かす場があることで、より健康寿命の延伸に繋がるという研究データもあるので、できるだけそういう機会を増やしていきたいというニーズがあります。

そういう中で、大野島地区では歩いて行ける範囲にそういう交流できる場所があればいいなという事で、大野島小学校の空き会議室を活用させていただいて、高齢者のかよいの場を10月から月1回開催することになりました。

ここでは教室の窓から見える沿岸道路の風景とか、小学校の卒業写真に昔の自分たちをみつけて楽しんだりされていまして、ほんとに素晴らしい機会をいただいたと思っています。

最初に打合せしたときに、学校側では毎月高齢者の方に何か活動してもらわないといけないんじゃないかと、すごく配慮を考えられていたらしいんですが、そこまで学校側がおもてなしをしなくてもいいんですよと、我々は元気カフェという介護予防の体操を教えるボランティアの人達がいるので、その方達が高齢者と一緒に活動をしますよ、と説明しました。

学校と一緒に出来たらいいなと思うのは、高齢者の方々は縫い物が得意とか、野菜作りをされている方が多いので、例えば、生活の時間とか先生のお手伝いをさせていただくとか、校庭の隅の菜園と一緒に園芸や収穫体験とかをさせていただいたらいいなと思います。そういう機会を計画の中に負担にならない程度に一緒に入れていただくと、高齢者の健康づくりという面からも効果があると思いますので、これからもお願いできればと思っています。

大川桐薫中学校との取組として、大川市健康福祉センターの敷地内に、生徒さんたちと高齢者の方たち一緒に、花壇づくりをしていただきました。そのあとも、枯らさないように、高齢者の方たちが当番で水やりや手入れ等をされていて、生き甲斐づくりに繋がり、ありがたいことだと思いました。

○倉重市長

ありがとうございました。学校によってはいろいろ取り組まれていると思います。地域支援課はいかがでしょうか。

○島崎地域支援課長

地域支援課では、防災・防犯・交通安全を担当していますが、川口地区の川口安心のまちづくり推進会議の中で、子供達の見守りや防犯パトロールなどいろいろ活動をされており、地元の子供達を大切に育てていこうという地域の想いが伝わってきます。

コロナ禍でなかなか行事が出来ないと、どこの地域も苦慮されていると思いますけど、これからも協力をお願いしたいと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。大川小学校では、防火水槽を清掃しようという行事があって、市P連と市長の懇談会で話題になっていました。

健康課のお話の中で、大川桐薫中学校生徒と一緒に花壇づくりの話が出ましたが、花壇は1回作ったら終わりじゃなくて、維持していかないといけないので、継続的な活動が出来たらいいなと思いました。

企画課からはいかがですか。

○野中企画課長

まちづくりの観点から、コミュニティ・スクールは地域づくりを視点にという言葉が出ましたが、地域にとって自分たちの学校だという認識のもとに、学校を核として特色ある地域づくりをしているのが重要だと思いました。

そのためには、地域や学校が何を欲しているのかを議論していくのが肝心で、そうして何をやるかを決めていく事が重要ではないでしょうか。

○倉重市長

ありがとうございました。いろいろ意見がでてきましたけど、教育委員さん方からはいかがですか。

○谷川委員

いろいろ意見を聞かせていただいた中で、地域やコミュニティ・スクールで子供達を育てていくには地域づくりをしていく事を考えたときに、子供達と地域の人達がふれあえる場所と時間がすごく大事だと私は思っています。

私は仕事柄、年配の人達と接する機会が多いのでその中で話をしていると、お孫さんはいるけど、一緒に住んでないので、会いたいけどコロナ禍でもあるし遠方なのでなかなか会えない。

また、自分たちが住んでる地域にも同じくらいの年齢の子供達がいるので、声をかけようかと思うけど、顔見知りではないので、不審者と思われて警戒されることもあるし、コロナ禍と人口減少で地域の行事が出来なくなってきたから、地域に子供達がいるけどその子供達を知らないし、子供達も自分たちを知ってくれていないという状況なので、本当は地域の子供達とふれあいたいけどなかなか出来なくて非常にさびしいといった話をよく聞きます。

そうすると、学校と地域をつなぐという事は、人と人をつなぐ事で、そのために最初に申し上げた場所の提供と時間を作るという事が、とても大事なかなと思います。

いろいろな学校のプログラムがあると思いますが、まずは地域の多くの人達と児童生徒が会えるような場所づくり時間づくりに取り組んでいく事が優先かなと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。時間と場所について、学校現場としてはいかがですか。

○松延小学校長会長

学校にとってもありがたい事に、お年寄りとふれあう事で子供達が優しくなるし、地域の方達と関わる事で視点がひろがるんですよ。

そうすると、目的をはっきりして教育課程を組めば、無理なく地域の人達と関わる事は可能なのかなと思います。逆に、場所と時間を先に作ろうとすると、無理をしてしまうと思うし、無理をすると続かないと思います。だから、目的をしっかりとする事が大事だと私は思います。

○添島区長会長

私は、木室小学校の学校協働活動の推進委員をしていますので、学校に関わった地域の人達が言われるのは、先生達は大変だと言われていまして、実際に学校に入るとそれが実感されました。

それと、学校に関わる人達は、高齢者とか仕事を終えた方などのある程度自由時間をもった方でないと、児童生徒と一緒にやっていく事が難しいので、そういうメンバーを集めてきたつもりです。

○岡中学校長会長

開かれた学校という事で、学校に地域の方を呼んで授業に参加してもらうのは一つの案だと思いますが、危惧するのは学校の安全面で、不審者を学校に入れれないという事です。

池田小学校の事件があつてから、門を施錠して、かなりセキュリティ面で厳しくなった時期もありましたが、今は若干ゆるくなってきました。

そうした面で、地域の方をお呼びするときに、そここのころの心配が出てくると思いますので、なんらかの工夫が必要だと思います。

この前の「芦刈プロジェクト」で、最初に中学生がボランティアをしたいと事務局に話したときに、すぐにいいですよとは言ってもらえず、中学生に出来るのか、中学生がケガすることなどを心配されたような印象を受けまして、それで3年生の希望者だけの参加にして、私も参加しますよという条件で、参加できることになったんですけど、今の中学生の良さを地域の人達にわかってもらいたいというのが私の想いでした。

それで実際に行ってみると、中学生たちがよく活動してくれて、まわりの人からの評価があがったと感じましたので、そういう活動をやっていくと、地域の目も変わるのでそういうのも大事かなと思いました。

○倉重市長

ありがとうございました。私も、子供が小学校に入ったときは東京に住んでいまして、小学校からカードが2枚渡されまして、両親分ですけどそれを持っていかないと学校敷地に入れれないというものでして、同じものを地域の人達にも渡されていて、どちらかというとな保護者以上に地域の人達の方が学校に入っているようなところでした。

それで、こちらにきまして、私達世代からすると学校の敷居が高く感じられて、親が学校に入っているいいものなのか、変な人と思われるんじゃないかとか、声掛け事案で警察に連絡がいく事もありま

すので、谷川委員が言われたようにまずは、知る事から始めて、お互いの遠慮をなくしていく施策が大事なのかなと思います。

そういう意味では、例えば地域の方のための授業参観の時に、カードを作るとか親しみやすい形でなにか作って、安全面を確保していくといいのかなと思いましたし、大野島小学校みたいに日頃から顔なじみになれば、日常的にわかるようになると思います。

○石山係長

大野島小学校の場合は、参加される高齢者の方々に名札をお配りして、その事業の参加者とわかるようにしています。

コロナ禍でもあるので登録者制にされていて、当日参加した人がわかるようにしています。

○倉重市長

こういう大野島小や木室小での取組は、学校間で共有されてありますか。

○田中社会教育主事

地域学校協働推進委員の方が、各小・中学校にいらっしやいまして、その方々との交流会を年に数回していますので、その中で情報交換しています。

先日、社会教育委員と地域学校協働推進委員の合同研修会を開催し、大野島小学校に「元気カフェ」の視察をしましたので、その中でも情報共有されていると思います。

○倉重市長

地域では地域と学校の対話を続けていながら、各校区が取組が共有されると、たくさんヒントや気づきがあると思いますので、繰り返しやっていくといいのかなと思います。

いろいろなご意見が出て議論を進めてきましたけど、一ノ瀬委員や今村委員からご意見があればお願いします。

○一ノ瀬委員

いろんな取組をされている中で、お互いの中に芽生えるものがたくさんあるという事を広げていって、豊かな心の子供達が育っていくといいなと思います。

○今村委員

学校とつながりのある活動をしていけばいいなという事と、地域の人達がやっている事を知らないという事があるので、どうやって保護者と子供達に結びつけていくかという事が大事で、知らない人たちにどうやって伝達して参加につなげていくか、新しい発想で何かつくっていけばいいなと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。今村委員から冒頭に、地域と保護者と子供達が連動するような活動の在り方が大事だという話がありましたし、一ノ瀬委員からは、市報とかでいろんな活動を市民の方に知ってもらう事が大事だという話がありました。

私も、皆さんの話を聞いていて、とても良い方向に向かっていると思います。少しずつ進めていかないといけないので、現場でのご苦労はあると思いますが、良い方向に向かっていると思いつつも、もしかしたら一番退いている立場が保護者ではないかと思っていて、保護者は現役世代で仕事を持っていて忙しいと思いますので、面倒に思って当事者なのに及び腰になっている保護者が結構多いなという実感があります。

それで、どうやって各コミュニティ・スクールの取組を伝播させていくのかを、PTAの皆さんとも協力していきながら、伝えていかないといけないと思います。

ここまで様々なご意見をいただきましたけれど、教育長から総括的にお話をいただければと思います。

○内藤教育長

今日のテーマにして良かったなと思っています。

オブザーバーの方や行政の市長部局からも発言いただきありがとうございました。

私が社会教育主事になるときに、前教育長からコミュニティ・スクールを全部の小・中学校に作ることを命題とされました。それで、1年間だけでしたけれど、がんばっているいろいろな方やコミセン関係者と話をきて、今は全部の小中学校にコミュニティ・スクールを作ることが出来ました。

今日のお話を聞いていて、学校によっては非常に進んでいるコミュニティ・スクールがありますが、岡校長先生が言われたように中学校での難しさとか、コロナ禍で活動出来なかったという実情もあります。

私が思っているのは、コミュニティ・スクールを作った事で、子供達の周りにいろんな応援団が出来たなという事です。

添島区長さんが言われたように「先生達は大変なんだね」とか、岡校長先生が「中学生もなかなか役に立つ」と言われたように、子供達や学校の事を知ってもらうのにコミュニティ・スクールが有効であると思います。

私が、前職で校長をしていましたときに、学校の応援団という立場でコミュニティ・スクールを作ったらいいなと思っていて、まさしく今そうなっていてうれしく思います。

私も、長く社会教育に携わっている中で、尊敬する先輩教育長が実践されている事ですが、学校の教室の一部を地域に開放して、地域の皆さんがそこで学ぶ「学び塾」を全部の小学校で設置してありました。

そういうシステムが出来たらいいなと思っていたところ、いみじくも、今年、大野島小学校で「元気カフェ」をしていただいたという事で、今後も、学校と地域がお互いを知るという観点から、今までの学校は学校だけのものという考えではなくて、学校の中に地域の方達が出入り出来て、お互いがウィンウィンになるように活用するような事例がたくさんありますので、そういったことも出来るかなと思っています。

それから、「共有」という言葉が出ましたけれど、大川市民の方もコミュニティ・スクールでやっている事を知らないと思いますので、共有する方法として、教育フェスタみたいにコミュニティ・スクール交流会みたいなものをするとか、市報に連載するなど、いろいろな形で知っていただく工夫しないといけないと思います。

今日のキーワードとして、「つながる」「知る」「発信する」という言葉を残したいと思います。
皆様からいただいたいろいろな意見を参考にして、令和5年度に活かしていきたいと思います。

○倉重市長

ありがとうございました。今日いただいたご意見を来年度以降にしっかり反映していけるように、市長部局としてもやっていきたいと思ひます。

また、「知る」という事がお互い大事ですし、市民の皆さんに知っていただく機会をとらえていきたいと思ひますが、学校づくりも地域づくりも終わりがなひ大事な課題でありますから、今後とも皆さま方のご協力をお願い申し上げまして、令和4年度の総合教育会議を終わらせていただきます。

ご協力ありがとうございました。